

## I 事業の概要（地域の実情含む）

岩手町では、近年大きな災害は起こっていない。今年度発生した台風19号での被害も幸いにしてなかった。しかしながら、北上川の源流であり、水害等自然災害に対しての備えは常に必要な状況である。

そこで、岩手町で過去に起こった災害（火山噴火、水害）について学び、岩手町での今後想定される洪水、土砂、地震、火山噴火の危険性について専門家からレクチャーをしていただくことで、その危険性についての理解を深めるとともに、その危険性に対応する力を涵養していく。

また、ボランティア活動を行うことで、東日本大震災津波をはじめとした自然災害が及ぼした影響を理解し、防災体制が必要であることに対する理解・意識を深めるとともに、ボランティア精神の涵養に努める。

さらに、学校内にとどまらず、地域全体の安全意識を高めるために、取り組みの成果を文化祭で発表し、近隣の小中学校に伝えるとともに、地域の小中学校と連携して事業を行うことにより、地域安全に対する意識を高める。また、登下校の交通安全に関する取り組みを共有し、その成果を、各校で共有する。

## II 取組の概要

### 1 災害について学ぶ

#### （1）被災地支援活動についての講話（6月24日）

全校ボランティアの実施に先立って、東日本大震災の被災援助活動を続けている金野万里様より、被災の状況や援助活動の実際の取り組みを講演していただいた。

震災により多数の方が盛岡に避難してきた。時間の経過とともに変わってきているところはあるものの、震災当時立ち上げ、現在まで続いているプロジェクトがあり、そのことを含めて、現在の支援の状況をご説明いただいた。

#### 《生徒の感想》

・ボランティアは、他人のためだけではなく自分のためにもなることと、ボランティアをすることでたくさんの人とつながったり情報をもらったりもできることがわかりました。

（1年女子）

・今日の講演会の中で、金野さんが「小さな見返りを求めて」ボランティアをして欲しいと話していた。ボランティアを通して人生経験を増やし、宝にしていけることが、今の私たちにできることだと感じた。（2年女子）



〔講演会の様子〕

### （2）全校災害ボランティア活動

ア 1学年は宮古市田老地区を訪問。防潮堤を見学し、田老観光ホテル跡地を訪れ、当時のホテル社長が撮影した津波の映像を見、震災を経験した語り部の体験談を聞き、その後、ボランティア活動（環境整備活動）を実施した。



〔被災体験を聞く生徒たち〕



〔海岸線での環境整備活動〕

イ 2学年は岩手町高齢者福祉施設5カ所（「あんずの里」「育心会」「岩手町デイサービスセンター」「中山の園」「和や家」）を訪問し、ボランティア活動を実施。高齢化が進んでいる地元の現状を知り、今後、災害が起きた場合に、どのような状況になり得るかを知る手がかりを得た。



〔岩手町デイサービスでの食事のお世話〕



〔和や家での車いす体験〕

ウ 3学年は盛岡市災害公営住宅を訪問。草取り、クルミ殻を利用した花壇整理、放置自転車の撤去などの環境整備ボランティア活動を実施した。その後、被災した方々から直接話を伺い、復興途上であるという現状認識をすることができた。



〔住民の方々と草取り〕

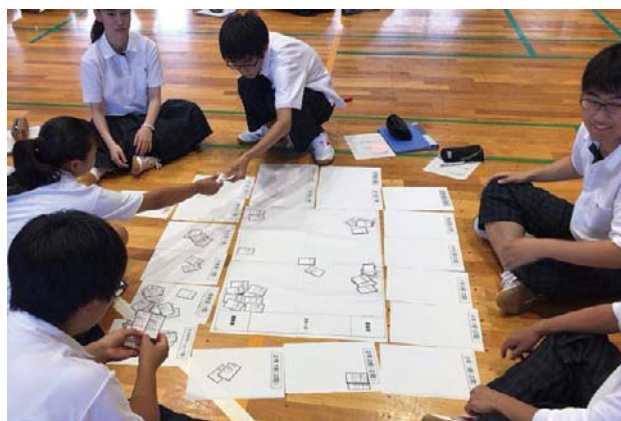


〔住民の方々との懇談会〕

## 2 防災学習

（1）1学年にて防災学習を実施。岩手町の危機管理監、避難所になっている道の駅の支配人の方から講話をいただき、現状認識を深めた。

（2）1学年にて HUG（避難所運営ゲーム）を実施。11月に予定されている中高合同訓練の運営をするのに必要となる知識や視点を得た。



〔避難所運営ゲームの様子〕

（3）沼宮内中学校と合同で避難所運営訓練を実施。岩手町の危機管理監澤口様にもご指導をいただき、実際の避難所運営を体験した。

この訓練においては、生徒がこれまでの授業や講座を通じて得た知識や、自分自身の経験からどのようなことが望ましいかを検討し、準備や運営を行った。また、沼宮内中学校との合同訓練ということで、受け身ではなく、より積極的に判断、行動をすることが求められたが、生徒は自分がなすべきことを考えながら行動した。



《生徒の感想》

- ・ 大人数のものを準備するには、一人ひとりがちゃんと働かないといけないので、学校生活や部活でも自分がしっかり役割をもって生活していきたい。  
(1年男子)
- ・ 今後、もし避難所が沼宮内高校になったら、私たちが積極的に動き、誘導したりお手伝いをするのが大切だと思う。そして地域の方々を元気づけられたら良いと思う。(1年女子)
- ・ 災害にあってしまったとき、段ボールなどいつもは使わないようなものが使えることを知ったので、何かあった時は、身の回りのものを活用していきたい。(沼宮内中学校3年男子)
- ・ (高校生は) 笑顔で優しく何をするか教えて下さって安心できた。(沼宮内中学校3年女子)



〔避難所体験〕



〔食堂への案内〕



〔受付の様子〕



〔豚汁とアルファ米の試食〕



〔卓球用フロア仕切りを利用した避難所づくり体験〕

### 3 地域防災を考え、発表する

#### (1) 学校防災アドバイザー派遣事業(9月5日)

地域防災の意識を高めるという観点で、沼宮内小学校、沼宮内中学校に案内を出し、岩手大学地域防災研究センター客員教授、越野修三氏をお迎えして、災害時の危機管理についての講演をいただいた。

東日本大震災で陣頭指揮を執って対応に当たった経験から、地域での連携が重要であること、また、正常化の偏見に陥らないようにするために必要なことをご教授いただき、状況判断のための演習をして、災害時に必要となる判断力を高める機会を得た。



[派遣事業の様子]

## (2) 文化祭における発表

文化祭において、ボランティア活動についての成果発表を展示の形で行った。



[文化祭での展示]

# Ⅲ 取組の成果と課題

## 1 成果

6月の避難訓練で全学年の危機管理意識を高め、講演活動やボランティア活動への参加をとおして、ボランティアの意義や自分たちの関わり方について、また、今後の行動について考える機会を得た。

1学年では、総合的な探究の時間を活用しながら、地元に関する理解を深めるとともに、防災意識を高め、また、中学生との合同訓練を通じて地域安全を確保するための連携に対する意識も醸成した。

2学年では、高齢者施設におけるボランティアを実施し、地域が抱える高齢化問題とそれに対応できる危機管理体制の必要性を学んだ。また、総合的な学習の時間で実施した地元企業でのインタ

ーシップの経験と相まって、地元で仕事をする意味づけをとらえ直すきっかけを得た。

3学年では、災害公営住宅における現在の状況を知るとともに、卒業後、社会人として必要になってくる、地域社会のあり方に関しての知見を得た。

今年度の学校安全総合支援事業は、単発な活動としてではなく、学校におけるカリキュラムを活用しながら、そして、小学校・中学校・高等学校の連携を意識して、地域全体としての安全を確保するという視点を盛り込みながら実施し、生徒の防災・安全意識を高めていくことができた。

## 2 課題

### (1) 学校のカリキュラムマネジメント

今年度の1年生から導入された「総合的な探究の時間」をある程度活用して事業を実施することができたが、今年度の学びを次年度にどのようなにつなげるのか、また、1学年のカリキュラム自体もどのようにしていくのが望ましいのかを検討していく必要がある。そして、ゆくゆくは、3カ年を見通して、学校のカリキュラムマネジメントに沿って学びが展開されるようにしていくことが望ましい。

### (2) 異校種との連携

今年度は、沼宮内小学校・沼宮内中学校との連携を目指し活動を行ったが、小中高12年間にわたっての地域安全の柱となるような活動にはまだなっていない。日常生活における安全も考えながら、有事に備えることができるよう連携しておくことが必要である。

### (3) 岩手町との協働

今年度は、町長さんの講演会をはじめとして、岩手町との協働を意識して活動することができた。しかしながら、防災だけではなく、それ以外の活動も含めて町との連携を深めることが必要である。学校が町を安全に、また、活発にする要となるような存在になることができないのかを模索しながら、様々な形での地域協働を可能にしていきたい。